

## 震災後に思う事

中込 秀樹

3月11日に起こりました東日本大震災は未曾有の被害を引き起こし、瓦礫の処理も、福島原子力発電所の事故の復旧も、まだまだ先が見えない状況が続いております。FSRJ会員の中にも直接被害を受けられたり、間接的に有形無形の影響を受けられた方々も多々おられると思います。心よりお見舞い申し上げます。

今回起こりましたいろいろなことは、会員諸氏にとりましても考えさせられることが多かったのではないかと思います。私自身も、以前東芝に勤務していました関係も有り、東芝社員やOB、大学の同僚や学生メンバー、共同研究先の方々、その他多くの方々と折に触れて話題にすることが多くありました。その結果たどり着きましたことは、我国がこのような状況に至った過去からの経緯、現在の状況の正確な把握、今後の我国の向かうべき方向を先入観を排して、基本から考えてみる必要ありということでした。是非会員の皆様にも今回の事をきっかけにして、今一度原点に戻ってものを考える習慣をつけるよう呼びかけたいと思いますが、如何でしょうか。以下にご参考までに私自身が強く印象に残りましたことをいくつかあげます。

震災からはやや論理の飛躍があるかもしれませんが、私自身が強く感じていることは日本人のガラパゴス化への危惧です。さてガラパゴス化とは何でしょうか。ガラパゴス諸島は南米エクアドルの西方の南太平洋上の沖合約900キロにある火山性の島々で、独自進化した動物、例えばガラパゴス・イグアナ、ガラパゴス・ゾウガメ等が生息していることで有名です。独自の進化を遂げた生物は、外から入ってくる外来種の攻撃に極めて弱いのですが、世界遺産にも登録され、独自進化した動物の種が絶滅しないよう、厳重な自然保護対策がなされています。

さて日本製品のガラパゴス化とは、日本企業のつくりだすものやサービスが海外で通用しないことをいいます。たとえば携帯電話は国内は日本のメーカー製のものが席卷していますが、海外で日本製の携帯電話を見ることはほとんどありません。このような状況に陥った理由は、日本人は携帯電話に多くの機能を求めるが、諸外国の人々は通話ができさえすれば良いというユーザーのほうが多いためです。携帯電話以外には、液晶テレビ、DVDレコーダー、カーナビ、ETCなどがガラパゴス化製品としてあげられています。

日本製品のガラパゴス化を招くもうひとつの理由が人口です。アジア圏の国々の中で日本の人口は1億2800万人に対して、韓国は4900万人、台湾は2300万人、中国は13億人となります。中国はもちろん、人口1億の日本も自国に前述のようなエレクトロニクス製品の大きなマーケットを抱えているため、自国市場のみでも十分ビジネスが成立します。そのために新興国を含めた世界市場に向け

たものづくりや市場開拓がおろそかになるリスクを持ちます。一方、韓国と台湾は自国市場のみでは不十分なため、最初からグローバル展開を目指します。昨今のこれらの国の製品の台等を見れば理解いただける筈です。

さて以上のように日本製品のガラパゴス化は既に始まってしまっており、もはや仕方の無いことですが、更なる大きな問題は、日本という国と日本人のガラパゴス化です。日本は四方を海で囲まれており、陸続きの国境はありません。これは他国から容易に攻め込まれないという意味ではメリットですが、日本という国が孤立し、鎖国状態になる危険性をはらんでいます。また日本では若い人を中心に、海外勤務を敬遠する傾向が出てきています。また「草食系男子」という言葉に代表される内向的でおとなしい若者も増えています。他国との係わり合いを積極的に求めないということは、もちろん自国内での人間関係も希薄になる、ないしは既になってしまっているということなのかもしれません。

日本人は議論下手、論理的に話す事が苦手だそうです。もともと「議論」や「討論」は日本語には存在せず、「ディベート」の訳語として明治時代に生まれた新しい言葉です。つまり英語はもともと論理的な言語であるが、日本語は情緒的な「察し」の言語だということです。例えば、電車でウォークマンから音が漏れていると、日本人(語)では「音が丸聞こえだ」と言うのに対して、アメリカ人(語)では「音を下げてくださいますか?」と言う。講義で配ったプリントが足りないときに、日本人は「先生、プリントが足りません」と言うのに対して、アメリカ人は「先生、プリントをあと〇枚下さい」と言う。つまり日本語ならびに日本人は相手が察してくれることを前提とした言語体系なのに対して、米語ならびに米国人は論理的なコミュニケーションを積み重ねていく体系なのです。もちろんこの日本人ならびに日本語の情緒的な部分が、高度で豊かな日本的文化を生み出したことは確かですが、危機管理の体系的なシステムづくりや先進巨大システムの総合的な管理技術の構築というような、情緒的な部分を排除して綿密な論理の積み重ねが重要な領域はやや不得意かもしれません。

目標とするべき他国が無くなり、また他国からは目標とされ、さらに少子高齢化に見舞われている我が国が、今後維持繁栄していくためには、国民ひとりひとりが先入観に捕らわれずに、自分の頭で良く考える必要があると思っています。被害にあわれた方々にはたいへん申し訳ありませんが、今回の震災を考え始めるひとつのきっかけにして、いずれまた起こるであろう次の震災にも生かsetらより良いでしょう。つまり日本という国、日本語と言う言葉、日本人と言う民族を考えますと、常に自ら意識していないと意外に他国に対して孤立化してしまうリスクがありそうです。しかし、だからといって悲観的になる必要は全くありません。「敵を知り己を知らば、百戦して危うからず」は孫子の兵法のひとつですが、日本人は今まで目標に追いつき、追い越すことのみで専念して、改めて己を省みる機会が少なかったように思います。また従来からある、何事も他人に(例えばお上に)決めてもらったほうが安心するような国民性がまだ残っています。ですから今こそ、己を良く知るチャンスであり、その上で日本人の持つ長所を最大限に生かし、短所をできるだけ目立たなくしていくことが、肝要ではないでしょうか。

## 参考文献

- ガラパゴス化する日本の製造業、宮崎智彦、東洋経済新報社、2010  
ガラパゴス化する日本、吉川尚宏、講談社現代新書 2038、2010  
脱ガラパゴス戦略、北川史和／海津政信、東洋経済新報社、2009  
ガラパゴスでいいじゃない、岡康道・小田島隆、講談社、2010  
高校生のための論理思考トレーニング、横山雅彦、ちくま新書 604、2010  
日本の未来、ほんとうは明るい、三橋貴明、ワック株式会社、2010  
日本のグランドデザイン、三橋貴明、講談社、2010